おおてみち

第137号

令和８年（2026年）10月１日
滋賀県立安土城考古博物館



愛知県指定文化財　築城図屏風（名古屋市博物館蔵）部分

令和８年度秋季特別展・安土城築城450年記念

天下人の城下町 安土



近江八幡市指定文化財 織田信長画像（近江八幡市摠見寺蔵）部分

令和８年
10月10日（土）―11月15日（日）

開館時間 ＝ 午前９時～午後５時 ※入館は午後４時30分まで
休 館 日 ＝ 月曜日 ※ただし月曜日が祝日の場合は翌日
入 館 料 ＝ 大人970円（750円）／大学生700円（520円）／
小中高生420円（310円）／県内高齢者〈65歳以上〉510円（390円）
※（　）は20人以上の団体料金です。
主催 ＝ 滋賀県立安土城考古博物館

近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

令和８年度秋季特別展
安土城築城４５０年記念

「天下人の城下町　安土」

会期：令和8年10月10日(土)～11月15日(日)
会場：企画展示室

尾張国（愛知県）から実力で台頭して天下静謐を目指した織田信長は、天正三年（一五七五）一一月、敵対勢力をほぼ制圧したとして、織田家の家督と尾張・美濃（岐阜県）の領国を嫡男の信忠に譲ったのち、翌年から近江国（滋賀県）安土において、これまで類を見ない壮大な城の建築に着手しました。これが、近世城郭の先がけとなった安土城です。今年は、その築城開始から四五〇年の記念の年にあたります。

作られたのは、城だけではありません。その麓には、天下人となった信長にふさわしい、多くの人で賑わった城下町も築かれました。この地は古代以来の庄園である豊浦庄や、中世の港町であった常楽寺港があった場所でしたが、信長はそれをさらに発展させた町を作り上げようとします。

町づくりの基本方針として、十三箇条からなる掟書（安土山下町中掟書）が定められましたが、そこには、町全体を楽市楽座とすることや、移住してきた人々の税や労役負担を免除する特典、治安の守られた安全な町とする工夫、商人らに城下町に立ち寄り宿泊させる義務などが記されていました。さらに信長は、家臣たちの家族を呼び寄せ、寺社やキリスト教の施設なども誘致しています。

六千人もの住人で賑わったとされる町に発展しましたが、信長が本能寺の変で討たれ、家臣の羽柴秀吉が天下統一を引き継ぐと、その甥の秀次が新たに建てた八幡山城の城下町へと、人々は移って行ってしまいました。

信長が作り、その後、秀吉、家康とつながる天下人の町づくりのモデルとなった安土城下町は、いったいどのような町だったのでしょうか？

展覧会では、安土がどのような町だったのかについて、それ以前に楽市があった観音寺城の城下町や、信長の築いた小牧（愛知県）・岐阜（岐阜県）、安土を引き継いで発展していく八幡や秀吉の大坂、家康の江戸を通して、天下人の町づくりを、残された資料から考えます。

（髙木叙子）

【主な展示資料】

◎重要文化財、△県指定文化財、□市町指定文化財

□織田信長画像（近江八幡市摠見寺蔵）
△築城図屏風（名古屋市博物館蔵）
◎近江国守護奉行人連署奉書案
　―今堀日吉神社文書―（東近江市日吉神社蔵）
□近江国蒲生郡安土古城図（近江八幡市摠見寺蔵）
　信長公記　首巻（個人蔵）
◎織田信長制札（岐阜市円徳寺蔵）
　金城温古録 巻十二（名古屋市蓬左文庫蔵）
　江州蒲生郡豊浦村与須田村山論立会絵図（個人蔵）
□長谷川秀一画像（彦根市崇徳寺蔵）
　金森長近禁制―稱名寺文書―（福井市稱名寺蔵）
　河尻秀隆書状―高宮寺文書―（彦根市高宮寺蔵）
◎安土山下町中掟書（近江八幡市蔵）
△織田信長条々―橘家文書―（福井県立歴史博物館蔵）
□織田信長朱印状―酒井家文書―（名古屋市博物館蔵）
△織田信長朱印状―浄厳院文書―（近江八幡市浄厳院蔵）
　豊臣秀次画像（大阪城天守閣蔵）
◎八幡山下町中掟書（近江八幡市蔵）
◎徳川家康禁制―長命寺文書―（近江八幡市長命寺蔵）

※会期中展示替えを行います。詳細は、開幕日以降に博物館ホームページをご確認下さい。

〈秋季特別展記念講演会〉

10月31日(土)

「信長の城下町の系譜～安土への道」

講　師　仁木 宏氏
　（大阪公立大学教授・大阪歴史博物館館長）
時　間　13時30分～15時
会　場　当館2階セミナールーム
参加費　１０００円
定　員　１２０名　※先着順

〈城郭トレイル〉

❶10月12日(月・祝)「**安土城跡①**」
❷11月3日(火・祝)「**安土城跡②**」
❸11月14日(土)　「**観音寺城跡と桑實寺**」

※いずれも事前予約が必要（雨天中止）
参加費　２０００円（入山料、保険料を含む）
定　員　❶❷25名、❸20名

収蔵資料紹介

文明年銘平瓦

文明三年（一四七一）

近江八幡市摠見寺蔵　当館寄託

本資料は、近江八幡市安土町所在の摠見寺二王門を大正六年（一九一七）に解体修理した際、屋根から降ろされたものです。本資料と伴に保管されている付箋には、「大正六年楼門の屋根葺替修理の際発見せられたもので、背面に左の如き筆書がある　文明三年（西紀一四七〇）　南無観世菩薩　南無薬師　南無観世菩薩　六月八日」と記載されており、同様の願文が平瓦凹面に刻まれています。

資料の法量は、長さ三〇・三cm、広端幅二三・八cm、狭端幅二二・五cm、厚さ二・二cmです。瓦の表面をよく観察すると、凹面は全体を横方向に、その後左右両側面付近を縦方向になでています。さらに広端・狭端・両側面の角を面取りしています。両側面の角は二回、また狭端は他の箇所よりも広めに面取りしています。ほかにも瓦を屋根に葺く際に用いる葺き土の痕跡が、凹字状の白色として確認できます。中央横方向に付いた葺き土は、瓦の長さのおおよそ半分の位置になることから、この平瓦が屋根に葺かれていたときは、他の平瓦と二分の一ずつ重なっていたことが分かります。



文明年銘平瓦

反対に凸面を観察すると、縦方向になでて調整した上から、砂粒が多量に付いています。中世の瓦は一般的に、かまぼこ状の形をした凸型台で一次成形をすると考えられています。この瓦も、まず粘土を凸型台に載せて成形し、二次調整するための凹型台に置き直して表面を調整したのでしょう。凸面の砂粒は、このときに付着した離脱剤であると理解できます。

ところで、摠見寺は天正四年（一五七六）から天正九年（一五八一）の間に建立されたものと推定されています。つまり、瓦に刻まれている文明三年とは、一〇〇年ほどの時期差があるのです。なぜこれほどの時期差があるのでしょうか。摠見寺の由緒を記した「安土山摠見禅寺旧記写」によると、二王門の棟木には、元亀二年（一五七一）に建物を建立した旨が書かれています。安土築城よりも遡るため、別の場所から安土城へ移築してきたと理解されていますが、文明三年とは九〇年の時間差があります。そのため、二王門を移築する際に、他の建物に使われていた瓦が紛れ込んだのではないか、と推測されています。安土築城の際には、二条城の門や多聞城の櫓を移築したと史料に書かれますが、摠見寺建立に際しても、様々な建物の部材が移され、使用されたのでしょう。

（佐藤佑樹）

令和8年度の発掘調査について

特別史跡安土城跡では、天主台周辺地区の整備に伴う発掘調査を令和5年度から行っています。今年度は、天主台の北西面・西面・南面・南東面の4面の崩落部分と、伝二の丸跡の北東の隅の調査を行い、整備に必要となる情報を得たいと考えています。

7面で構成される天主台石垣のうち、北西面から南東面の4面の崩れている部分と、北西面の両端の隅角を調査しますので、この部分の残存状況や石垣構築に関する情報を得る予定です。

伝二の丸跡の北東隅は、天主台の北西面の裾にあたります。現状は、石垣の崩れにより天主台の北面は急峻な斜面となっていますが、本来は、伝二の丸跡と伝本丸取付台は天主台北面の裾でつながっていたと考えられます。今回の調査ではその様子が具体的に明らかになると期待しています。

（滋賀県文化財保護課）



天主台南東面（調査前）



伝二の丸北東隅（調査前）

令和８年度秋季特別展「天下人の城下町 安土」
10月10日（土）～11月15日（日）

特別陳列Ⅴ「豊臣の城３ 坂本城と大津城」
10月10日（土）～12月27日（日）

特別陳列Ⅵ「滋賀の縄文・弥生・古墳時代」
11月28日（土）～1月31日（日）

博物館の主な催し

10月

5日（月） 休館日
10日（土） ワークショップ 勾玉をつくろう①〈当日受付・参加費１０００円〉
11日（日） ワークショップ 勾玉をつくろう②〈当日受付・参加費１０００円〉
12日（月・祝） 城郭トレイル❶「安土城跡①」〈要予約〉
13日（火） 休館日
19日（月） 休館日
24日（土） 関西考古学の日記念講演会
26日（月） 休館日
31日（土） 秋季特別展記念講演会「信長の城下町の系譜～安土への道」
講師…仁木 宏氏（大阪公立大学教授・大阪歴史博物館館長）

11月

2日（月） 休館日
3日（火・祝） 城郭トレイル❷「安土城跡②」〈要予約〉
9日（月） 休館日
14日（土） 城郭トレイル❸「観音寺城跡と桑實寺」〈要予約〉
16日（月） 休館日
24日（火） 休館日
30日（月） 休館日

12月

5日（土） 連続講座「織田信長と浅井長政 攻防の４年間を深掘りする
～なぜ、そこまで信長は苦戦したか？～」
①「姉川合戦 実は長政は負けていなかった」
講師…太田 浩司氏（淡海歴史文化研究所所長）
7日（月） 休館日
14日（月） 休館日
21日（月） 休館日
28日（月）～1月4日（月） 年末年始休館

特別陳列Ⅴ
「豊臣の城３ 坂本城と大津城」

会期：10月10日（土）～12月27日（日）
会場：望楼ホール

秀吉は本能寺の変後、坂本城を近江滞在時の御座所として利用しますが、大津城を築かせると廃城とし、建材や石材は大津城に転用します。本展では坂本城と大津城から出土した瓦などを展示紹介します。



大津城跡出土の金箔飾り瓦
（大津市埋蔵文化財調査センター蔵）

特別陳列Ⅵ
「滋賀の縄文・弥生・古墳時代」

会期：11月28日（土）～1月31日（日）
会場：企画展示室

大中の湖南遺跡出土資料（滋賀県指定文化財）、大岩山銅鐸（重要文化財）、山津照神社古墳出土資料（滋賀県指定文化財）や館蔵品、県内出土の縄文・弥生・古墳時代の資料を展示紹介します。



重要文化財
大岩山 10 号鐸
（当館蔵）



山津照神社古墳出土
五鈴鏡
（山津照神社蔵）

※チケットの事前購入・シアターの予約は、こちらのQRコードをご利用ください。→
※事情により行事内容や日時・講師が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認下さい。
※滋賀県立安土城考古博物館は公益財団法人滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。

おおてみち　第137号
令和８年（2026年）10月１日発行
編集・発行　滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311　滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678　TEL0748-46-2424
E-mail：gakugei@azuchi-museum.or.jp　URL：https://www.azuchi-museum.or.jp